

学科試験の問題及び解答についてのお問い合わせには一切お答えできませんので、予めご了承ください。
なお、合否結果は、2024年2月に発表し、本人に通知いたします。

2023年度 技能検定 ハウスクリーニング職種 学科試験問題

問 1. 居住環境の問題として、誤っている記述を選びなさい。

1. PM2.5
2. 騒音
3. 換気不良
4. 赤水
5. ダニの発生

問 2. 厚生労働省の「快適で健康的な住宅に関するガイドライン」の項目として誤りを選びなさい。

1. 気温・日照ガイドライン
2. 臭気対策ガイドライン
3. 騒音・振動ガイドライン
4. 給排水設備の維持管理に関するガイドライン
5. 照明についてのガイドライン

問 3. 冷暖房時の温熱環境について、正しい記述を選びなさい。

1. 冷房時の室温は、25℃から28℃が適温である。
2. 冷暖房時の外気との温度差は、10℃ぐらいがよい。
3. 気流が1m/s増すと、5℃位涼しく感じるができる。
4. 湿度が下がっても、不快感は変わらない。
5. 冷やし過ぎで健康障害になることはない。

問 4. 上手な換気の方法について誤りを選びなさい。

1. 調理時及び喫煙時などには、窓や換気扇を利用して換気をする。
2. 窓や換気扇を利用の際は、反対側の窓も開けるなど、空気の流れを考える。
3. 窓や換気扇を利用の際は、空気の流れを考えて、最大限に窓を開けなければならない。
4. 超高層集合住宅など機械換気をしている場所では、無理に窓を開けない。
5. まず外からの空気の入り口を確保しないと、部屋の汚れた空気を排出することはできない。

問 5. ホルムアルデヒドについて、正しい記述を選びなさい。

1. 無色で無臭である。
2. 水に溶けにくい。
3. 35～37%水溶液は、全揮発性有機化合物（TVOC）と呼ばれている。
4. 殺菌作用があり、従来より温室や土壌の燻蒸剤等に利用されている。
5. 常温で固体である。

問 6. に入る記述として当てはまるものを選びなさい。

は、空気中にもともと約 400ppm（0.03%）程度含まれており、一般環境では問題になることは少なく、その濃度が 4～5%以上になった時は、中毒を心配する必要がある。

1. 一酸化炭素
2. 浮遊粉塵
3. ホルムアルデヒド
4. 二酸化炭素
5. 揮発性有機化合物（VOC）

問 7. 住居内における臭気の 3 大発生源として、正しい記述を選びなさい。

1. 「押入れ」「浴室」「台所」
2. 「トイレ」「浴室」「タバコ臭」
3. 「トイレ」「ゲタ箱」「台所」
4. 「トイレ」「浴室」「台所」
5. 「押入れ」「ゲタ箱」「タバコ臭」

問 8. に入る記述として当てはまるものを選びなさい。

カビが増殖する条件は、a. 栄養分、b. 酸素、c. 温度、d. 湿度、e. である。居住環境においては、このうちの酸素でカビの成長をコントロールするのは困難である。

1. 栄養分
2. 酸素
3. 温度
4. 湿度
5. 時間

問 9. 汚れについての記述で、誤りを選びなさい。

1. 住まいで発生する汚れの発生原因は、主に「人為的要因」である。
2. 人為的要因の汚れは、人が生活する上で発生する様々な汚れであり、台所の油汚れや浴室の石鹸カスなどがある。
3. コーヒーやお茶による汚れは水溶性物質であり、水に溶解または分散しやすいため、水でも比較的容易に除去される。ただし、水溶性物質の汚れの中には、時間が経つと水溶性でなくなるものもあり、中には漂白をしないと除去できないものもあるので、早めに除去する必要がある。
4. 食用油による汚れは油脂性物質のため、水だけでは容易に除去できないので、洗剤を使用し除去する。
5. ガスコンロに付着する焦げ付き汚れは、洗剤だけでは容易に除去することができないので、ヘラなどで削り取る等の物理的作業との併用が必要となる。

問 10. 汚れ物質について、に当てはまるものを選びなさい。

の汚れには、ガムのかみかすやガスコンロに付着する焦げ付き等によるものがあり、これらは材質表面にかさ高状に付着しているため、洗剤だけでは容易に除去することはできない。

1. 粉状物質
2. 水溶性物質
3. 油脂性物質
4. 固着物
5. 特殊な汚れ物質

問 11. 汚れの付着状態で、除去方法が不適切なものを選びなさい。

1. 床に落ちているホコリや髪の毛などを掃除機で除去する。
2. プラスチック素材の表面に静電気で吸い付いているホコリを乾いたタオルで拭き取り除去する。
3. ガムやアメなどが床にべたついた状態で付着したものを樹脂製のヘラを使用し、床を傷つけないよう注意し、こそぎ取る。
4. 蛇口のメッキに付着した水垢汚れは、化学的な結合で材質に付着しているため除去しにくいので、材質を傷めない研磨剤で削り取り除去する。
5. 金属面のサビ汚れは、金属面を傷めないような研磨剤で磨き除去する。

問 12. 「家庭用品品質表示法」の分類について、に当てはまるものを選びなさい。

合成洗剤とは、洗浄の主たる作用が脂肪酸塩以外のによるもので、これに無機、有機のビルダー（助剤）などの性質向上剤を加えたものをいう。

1. 漂白剤
2. 石けん
3. 界面活性剤
4. 洗浄剤
5. 研磨剤

問 13. 洗剤成分である界面活性剤が持っている作用で、にあてはまるものを選びなさい。

界面活性剤は水とも油とも親しくすることができる力を持つ。水だけではハジキやすい場合でも、界面活性剤を加えるとが下がって濡れが広がりやすくなる。

1. 表面（界面）張力
2. 浸透作用
3. 乳化作用
4. 分散作用
5. ミセル形成作用

問 14. 陰イオン界面活性剤（アニオン界面活性剤）の特徴について、正しい記述を選びなさい。

1. 水溶液中でイオンに解離し、この時マイナスイオンの部分が界面活性剤の働きをする。カーペット洗剤に使用されるアルキル硫酸エステル塩などがある。
2. 水溶液中でイオンに解離し、この時プラスイオンの部分が界面活性剤の働きをする。洗浄力はさほどないが、殺菌剤、帯電防止剤、繊維用柔軟剤などの用途に用いられる。
3. 水溶液中でイオンに解離し、この時プラスイオンの部分が界面活性剤の働きをする。洗浄力が高く、台所用洗剤、洗濯用洗剤などに用いられる。
4. 同一分子内にマイナスイオンとプラスイオンに解離する部分を持っている。洗浄剤、殺菌剤、帯電防止剤などに用いられる。
5. 水溶液中でイオンに解離しないエチレンオキシドや水酸基を持っている。洗浄性に優れるものがあり、床用洗剤などに用いられている。

問 15. 洗剤成分の性質や特徴について記述している中で誤りを選びなさい。

1. アルカリ剤は油脂汚れを分解する性質を持っている。アルカリ性洗剤に使用されるアルカリ剤として、水酸化ナトリウム（苛性ソーダ）がある。
2. 酸剤は水垢や尿石などの汚れを分解する性質を持っている。酸性洗剤に使用される酸剤として、塩酸がある。
3. 溶剤は洗剤の用途に応じ様々なものが使用されている。洗剤に使用される溶剤として、アルコール系溶剤がある。
4. 酵素剤は、動植物の生体内で各種物質の分解や合成に触媒的な働きをする高分子有機化合物であるが、洗浄の目的にも利用されている。酵素洗剤に使用される酵素剤として、クエン酸がある。
5. 研磨剤は水垢汚れなど除去しにくい汚れを削り取るといった物理的効果を持つ。クレンザーに使用される研磨剤として、酸化アルミニウムがある。

問 16. アルカリ性洗剤の成分として使用されることのある「アルカリ剤」を選びなさい。

1. 塩酸
2. 水酸化ナトリウム
3. エチルアルコール
4. 次亜塩素酸ナトリウム
5. アミラーゼ

問 17. 酵素剤についての説明として正しい記述を選びなさい。

1. 酵素剤は、動植物の生体内でイオン分解して塩基的な働きをする高分子無機化合物である。
2. 酵素の作用は極めて強力であり、洗浄体を傷め易い。
3. 酵素剤が効果を十分に発揮するためには、使用に際して様々な条件が必要であり、これが酵素入り洗剤の広範囲化を阻害している。
4. 最適作用温度は 35～75℃位の範囲であり、温度が低いと活動が鈍り、温度が高すぎると効果が薄れる。
5. 洗剤に使用される代表的な酵素としては、アミラーゼ、プロテアーゼ、リパーゼ、ペクチターゼ、メチルアルコール等がある。

問 18. 重曹についての説明で、にあてはまる正しい組み合わせを選びなさい。

重曹は (ア) といい、 (イ) 物質である。掃除、洗濯、消臭などの用途で使用される。

1. (ア) 塩化ナトリウム (イ) 弱酸性
2. (ア) 水酸化ナトリウム (イ) 中性
3. (ア) 炭酸水素ナトリウム (イ) 弱アルカリ性
4. (ア) 塩化カリウム (イ) 弱酸性
5. (ア) 水酸化カリウム (イ) 塩素系

問 19. 木質系床材のワックス塗布選定に関する説明で誤りを選びなさい。

1. 近年のフローリングの傾向として、UV（紫外線硬化型）塗装の普及、UV 塗装の高耐久（高硬度・緻密）化に伴い、樹脂ワックスの密着度が上がっている。
2. フローリングには樹脂ワックスと適合しにくい樹脂ワックス不要のタイプもあるので注意が必要である。
3. 白木（無塗装）に樹脂ワックスを塗布すると、木目によっては樹脂ワックス中の水分によって白木表面がケバ立ちを起こすことがある。
4. 樹脂ワックスを塗付した白木に水が垂らされ放置されると、ワックス皮膜が白化してしまうなどのトラブルを招くこともある。
5. 木質系床材への床用ワックスとしては、油性ワックスのような有機溶剤を溶媒として水を含んでいないものの方がトラブルは起きにくい。

問 20. 床材のメンテナンス性質について、 に当てはまるものを選びなさい。

は、床材からの可塑剤の表面移行が多く、塗布時に樹脂ワックスのハジキが発生したり、密着せず剥がれてしまうことがある。特に新築住宅などで初めて樹脂ワックス塗布する際は、丁寧に洗浄してから樹脂ワックスを塗布しないとトラブルが起きやすい。

この種の床材に対し、密着性に優れた樹脂ワックスの選定が望ましい。

1. ホモジニアスビニル床タイル
2. コンポジションビニル床タイル
3. フローリング
4. 天然石
5. リノリウム

問 21. 天然石床材のメンテナンス上の性質について、誤りを選びなさい。

1. 御影石は表面の仕上げ状態によっては、樹脂ワックスの塗布により、仕上がりが不良や密着不良がおきることがある。
2. 大理石の鏡面仕上げに樹脂ワックスを塗布すると、塗布ムラや密着不良が起きやすいため、樹脂ワックスの使用は避ける。
3. 大理石の鏡面仕上げに酸性洗剤を使用すると、床表面が侵され激しく光沢が低下する。
4. ジェットバーナー仕上げの御影石は、汚れなどの浸み込みが少ないため、飲食などシミ汚れが起きにくい。
5. 水磨き仕上げの御影石は、汚れが浸透しやすく、また、一旦浸透した汚れは除去するのが困難となる。

問 22. ワックスの効果について述べているが、誤りを選びなさい。

1. 床材の保護。
2. 床面が輝いて見える。
3. 汚れを付きにくくする。
4. 床材の損傷を補修する。
5. 床表面に付着した汚れも雑巾がけなどで簡単に落ちやすくなる。

問 23. ワックスの分類と各ワックスの主な成分について、正しい記述を選びなさい。

1. 油性ワックスは、天然・合成ロウなどの不揮発性成分を水に溶かしたものである。
2. 乳化性ワックスは、天然・合成ロウなどの不揮発性成分を揮発性の有機溶剤（石油系溶剤）に溶かしたものである。
3. 乳化性ワックスは、天然・合成ロウなどの不揮発性成分を水に溶かしたものである。
4. 水性ワックスは、天然・合成ロウなどの不揮発性成分を揮発性の有機溶剤（石油系溶剤）に溶かしたものである。
5. 樹脂ワックスは、アクリル樹脂に合成ロウ・アルカリ可溶性樹脂、及び少量の可塑剤・界面活性剤を加え、水に分散させたものである。

問 24. 樹脂ワックスを塗り重ねる際に、仕上がり不良として発生することのある「艶ボケ現象」について、誤りを選びなさい。

1. 樹脂ワックスの乾燥が不十分な状態で、その上に樹脂ワックスを塗り重ねてしまった場合に多くおこることがある。
2. 室内の湿度が高い時に樹脂ワックスを塗布すると乾燥が遅くなるため、十分な乾燥時間を置かないと起きることがある。
3. 室内の湿度が低い時でも室内温度が低い時は、樹脂ワックスの乾燥が遅くなるため、十分な乾燥時間を置かないと起きることがある。
4. 室内の湿度が高くても、ワックス塗布直後に送風機で強制的に乾燥させれば、起きにくい。
5. 樹脂ワックスを厚く塗り過ぎた場合も、乾燥時間によっては起きることがある。

問 25. カビ取り剤についての説明として正しい記述を選びなさい。

1. 浴室の陶磁器タイル（床面・壁面）の目地などにカビが発生している場合には、原液のサビ取り剤を用いて除去する。
2. 目線より高い壁面や天井でカビ取り洗剤を使用する場合の安全対策は、ゴム手袋を深めに装着して手袋付け根に侵入防止のタオルを巻く。
3. カビ取り剤に使用される塩素系化合物は安定性にすぐれ、気化しやすいという特色はあるが、約1日前後の長時間おくと高い防カビ効果を発揮する。
4. 塩素系のカビ取り洗剤の使用にあたっては、酸性タイプの浴室用洗剤との併用は避けなければならない。
5. ビニルクロス壁紙に発生したカビに対しては塩素系カビ取り剤で除去する。その際、カビ取り剤は漂白効果が高いのでビニルクロスには好適である。

問 26. に入る記述として、当てはまるものを選びなさい。

は、ボイラーで暖めた水蒸気をノズル先端から吐出し汚れ落とし、殺菌、消毒、臭いの除去に効果を発揮する。

1. スチーム洗浄機
2. 床みがき機
3. カーペット洗浄機
4. 噴霧器
5. コンプレッサー

問 27. 清掃用資機材の記述について、に当てはまるものを選びなさい。

は、トイレ、台所のシンク、浴室、洗面台などの排水パイプの詰まりを真空の吸引力によって除去する。

1. スポイト
2. 真空掃除機（ウエット型）
3. サクションポンプ
4. ウォータープライヤー
5. コンプレッサー

問 28. 「綿パッドクリーニング」での特徴で正しい記述を選びなさい。

1. 洗剤は強アルカリ性洗剤が最も適している。
2. 汚れの多い場所に適している。
3. 処理後、しばらく時間を置かなくてはならない。
4. ウィルトンカーペット洗浄に適している。
5. 無発泡性洗剤を使用することにより、基布まで浸透することでキレイに仕上がる。

問 29. に入る記述として、当てはまるものを選びなさい。

1つのコンセントから使用できる清掃用器具は、最大までの器具に電気を送ることができる。

1. 10A (1000W)
2. 15A (1500W)
3. 20A (2000W)
4. 25A (2500W)
5. 30A (3000W)

問 30. カーペット床材の素材の説明をしている。どの素材か選びなさい。

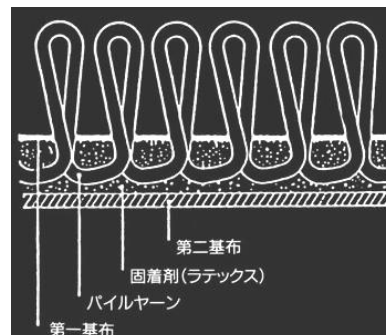
強度に優れ、繊維の中でも最も軽く（比重 0.91）、しかも、酸性やアルカリ性等の化学薬品に強くカビなどにも抵抗力がある。

1. ウール
2. ナイロン
3. アクリル
4. ポリエステル
5. ポリプロピレン

問 31. カーペットの製造方法とクリーニング時の注意事項を示した。次の図のカーペットの名称を選びなさい。

洗剤を多量に使用すると、第二基布の材質を傷めるので、パイルのほつれの原因になる。

1. だん通
2. アキスミンスターカーペット
3. ウィルトンカーペット
4. コードカーペット
5. タフテッドカーペット



問 32. 次のカーペットクリーニングの方式について、 に当てはまるものを選びなさい。

は、洗浄性に優れ、カーペットパイルの損傷が少なく仕上がりが良いが、たんぱく質の汚れがある箇所に行うと、汚れが除去しにくくなることがある。

また、水分の噴霧量が多いとカーペットによっては縮みの原因となる。

1. パウダークリーニング
2. シャンプークリーニング（ポリッシャー方式）
3. ローラーブラシクリーニング（ドライフォーム方式）
4. スチームクリーニング
5. 綿パッドクリーニング

問 33. カーペットのシミ取りについて、正しい記述を選びなさい。

1. 食用油のシミ汚れを落とすのに、油脂汚れ用アルカリ性洗剤を使用した。
2. しょう油のシミ汚れを落とすのに、油性シミ取り剤を使用した。
3. ワインのシミ汚れを落とすために塩素系漂白剤を使用した。
4. カビのシミ汚れを落とすために塩素系カビ取り剤を使用した。
5. 口紅のシミ汚れを落とすのに、油性シミ取り剤を使用した。

問 34. フローリング床材のクリーニングの時に発生するトラブルに含まれないものを選びなさい。

1. ふくれ
2. 反り
3. 異臭
4. 変色
5. ヒビ割れ

問 35. 次のフローリングの分類について、に当てはまるものを選びなさい。

日本農林規格によるフローリングの分類は、主として、板その他の木質系材料からなる床板で、表面加工その他所用の加工を施したものを総称して「フローリング」と定義し、単層フローリングとに大別している。

1. 合板フローリング
2. 複合フローリング
3. シートフローリング
4. 針葉樹合板フローリング
5. WPC系フローリング

問 36. 次の床材についての記述で、に当てはまるものを選びなさい。

は、耐アルカリ性に劣り、強アルカリ性のハクリ剤によって変色する。そのため、ハクリ作業を行う場合は、中性ハクリ剤を使用しなければならない。

1. リノリウム
2. コンポジションビニル床タイル
3. クッションフロア
4. 御影石
5. 陶磁器質床タイル

問 37. 次のステンレスの表面仕上げについて、に当てはまるものを選びなさい。

ステンレスのの清掃で、円を描くような作業を行うと、表面に傷が付いたり、溝の汚れが落ちない場合があるので、必ず筋目に沿って作業を行う。

1. エッチング仕上げ
2. ヘアライン仕上げ
3. 鏡面仕上げ
4. カラー仕上げ
5. つや消し仕上げ

問 38. ビニルクロス壁面のクリーニング作業の説明について、適正でないものを選びなさい。

1. 家具類を移動し、移動不可能な家具等は養生する。
2. 真空掃除機で壁全体を除塵する。
3. 専用洗剤を壁面に吹き付ける手順は下部から上部へ作業を進める。
4. 汚れの多い部分には、スプレーで直接酸性洗剤を吹き付ける。
5. 専用洗剤を拭き取る手順はウェットタオルのキレイな面を常に使い、一通方向に拭き上げる。

問 39. 天井仕上げ材のビニルクロスについて□□□□にあてはまるもので正しい組み合わせを選びなさい。

現在、その大部分を占めるのが□□(ア)を主原料としたビニル系シートで、耐水性があるため汚れても清掃しやすい、接着剤との反応による色むらなどが出にくい、安価で施工が容易であるなどの優れた特性がある。クリーニングの方法としては、除塵後、□□(イ)を用い、水拭き用タオルで汚れを除去する。

1. (ア) ポリ酢酸ビニル樹脂 (イ) 漂白剤
2. (ア) 塩化ビニル樹脂 (イ) 弱アルカリ性洗剤
3. (ア) 合成繊維 (イ) 油脂用洗剤
4. (ア) 合成硬化クラフト紙 (イ) クリームクレンザー
5. (ア) ビニルエステル樹脂 (イ) 壁用アルカリ性洗剤

問 40. 天井クリーニング(プリント合板)の作業方法について正しい記述を選びなさい。

1. 全体的にスス汚れが多かった為、まず水拭き作業から始めた。
2. 天井に均一に洗剤を塗布する為、スプレーヤーで全体に塗布した。
3. 汚れが強かった為、全体的に洗剤を塗布後、茶ハンドパッドで擦り洗いした。
4. 全体を除塵後、溶剤入り弱アルカリ性洗剤を白ハンドパッドに噴霧してこすり洗いした。
5. 汚れ防止の為、作業完了後家具用ワックスを塗布して仕上げた。

問 41. 白木・柱等のあく洗いで使用する苛性ソーダについて誤っているものを選びなさい。

1. 苛性ソーダは、食塩電解によって作られる代表的な強アルカリ製品であり、わが国ではイオン交換膜法で生産されている。
2. 苛性ソーダは、てんぷら油の廃油から、石鹼などを作るには欠かせないものである。
3. 苛性ソーダは、化学繊維・紙・パルプ・石鹼など幅広く使われている安全で手頃な薬品である。
4. 白木あく洗いで、沸騰したお湯に苛性ソーダを入れ、あくを作る。
5. 苛性ソーダは、液体で湿度・温度により固型化することがある。

問 42. シンク（流し台）に付いた水垢汚れを除去するのに、最も効果的な洗剤（洗浄剤）を選びなさい。

1. 中性洗剤
2. 塩素系漂白剤
3. 樹脂ワックス用剥離剤
4. 油性洗剤
5. クレンザー

問 43. 洗面台の洗浄に関する説明で誤りを選びなさい。

1. 洗面化粧台の主な素材は、陶器、鋼板、ホーロー、メラミン、ポリエステル、スチロール樹脂等がある。
2. 洗面台は、換気扇と同様に石けんカスや皮脂、水垢、カビ等の汚れが付着しやすく、基本的な洗剤の選定も換気扇と同じである。
3. 汚れが皮脂汚れ、軽度の石けんカスや水垢の場合は、浴室用洗剤で汚れを除去する。
4. 弱酸性タイプの浴室用洗剤を使用する場合は、酸に弱い材質（金属部など）に対する注意が必要である。
5. 対象の汚れが石けんカスや水垢で、浴室用洗剤で汚れが落ちない場合は、クレンザーで除去する。

問 44. 浴室のホーロー浴槽の清掃に使う資材のうち誤りを選びなさい。

1. 弱アルカリ性洗剤
2. スポンジタワシ
3. 耐水ペーパー
4. カビトリ洗剤
5. 弱酸性洗剤

問 45. 便器のクリーニングについて、誤りを選びなさい。

1. クリーニング用具は便所専用とする。
2. クリーニングの際には保護手袋を必ず着用する。
3. 衛生陶器の洗浄に強酸性や強アルカリ性の洗剤を使用すると、表面のつやがなくなり、変色の原因となるので専用洗剤を使用して行う。
4. 便器は専用洗剤を塗付し、しばらく時間を置いて専用ブラシでこすり洗いする。
5. 便座に付着した皮脂汚れを落とすために弱酸性トイレクリーナーを使用する。

問 46. 顧客との信頼関係について、最も不適切なものを選びなさい。

1. 信頼は一朝一夕にできるものではない。
2. 信頼とは、一日、一日を積み重ねてできるものである。
3. 一度失敗すれば、苦勞して全身に張り付けた信頼を一瞬にして失うこともある。
4. ひとたび得た信頼は、長い時間の忍耐に相応しい対応を受けることができる。
5. 信頼と請負価格は全く関係性が無い。

問 47. 労働災害を説明したもので、にあてはまるものを選びなさい。

労働災害における経験則の一つであるハインリッヒの法則によると、同一の人物に類似した災害が起こる時、数値は「1:29:300」の比率を示す。1回の重度の障害を伴う事故があったら、29回の軽い障害を伴う事故があり、300回もの障害を伴わない、いわゆるが起きていたことになる。

1. コックス比例ハザード
2. インシデント
3. モラル・ハザード
4. ヒヤリ・ハット
5. ゼロ・トレランス

問 48. 労働災害発生の仕組みの説明として□□□□にあてはまるもので正しい組み合わせを選びなさい。

実際に発生した労働災害の原因をたどると、一般的には「□□(ア) (不安全状態)」と「□□(イ) (不安全行動)」という欠陥 (直接原因) があり、さらにこれらの欠陥があつて、それが事故に結びつくに至った作業現場内における「安全衛生管理上の欠陥」(間接原因) がある。

労働災害は□□(ア) と □□(イ) の絡み合いにより発生した事例が多い。

1. (ア) 状況要因 (イ) 行動要因
2. (ア) 物的要因 (イ) 人的要因
3. (ア) 物的要因 (イ) 不安要因
4. (ア) 不安要因 (イ) 不完全要因
5. (ア) 危険要因 (イ) 不正要因

問 49. 洗剤・溶剤・薬品等の安全対策に関する説明として正しい記述を選びなさい。

1. ハウスクリーニング作業では、安全上、洗剤は弱アルカリ洗剤、及び弱酸性洗剤の使用に限定される。
2. 強アルカリ性洗剤と酸性洗剤は何れも、アルカリや酸の作用で作業従事者の皮膚障害等を招く危険性があるので注意を要する。
3. 漂白剤やカビ除去剤として使用される次亜塩素酸ナトリウムは、酸性洗剤との混合で危険な液体が飛散するので、特に注意が必要である。
4. 溶剤 (アルコール系、炭化水素系等) は、油汚れや洗剤では除去出来ない汚れに有効であり、危険性も低いので初心者でも安心して使用することが出来る。
5. 安全対策としてゴム手袋さえ着用すれば、洗剤の濃度を指定よりかなり濃くしても構わない。

問 50. 次の作業計画を作成する上で必要な標準作業量に関する記述について、
 に当てはまるものを選びなさい。

を決定するためには、作業量の概算見積りと標準作業量を予め知ることが必要となる。

標準作業量とは、標準的な体力と能力を有する作業従事者が一定の時間内に行うことができる作業量のこと、一般的に対象面積を見積り、標準作業量で割れば必要な を推定できる。

1. 作業面積
2. 作業人員
3. 作業回数
4. 作業工程
5. 作業仕様

学科試験の問題及び解答についてのお問い合わせには一切お答えできませんので予めご了承ください。

なお、合否結果は2024年2月に発表し、本人に通知いたします。

2023年度 技能検定 ハウスクリーニング職種 学科試験解答

問題	解答	問題	解答	問題	解答	問題	解答	問題	解答
問 1	1	問 11	2	問 21	4	問 31	5	問 41	3
問 2	1	問 12	3	問 22	4	問 32	4	問 42	5
問 3	1	問 13	1	問 23	5	問 33	5	問 43	2
問 4	3	問 14	1	問 24	4	問 34	3	問 44	3
問 5	4	問 15	4	問 25	4	問 35	2	問 45	5
問 6	4	問 16	2	問 26	1	問 36	1	問 46	5
問 7	4	問 17	3	問 27	3	問 37	2	問 47	4
問 8	5	問 18	3	問 28	4	問 38	4	問 48	2
問 9	1	問 19	1	問 29	2	問 39	2	問 49	2
問 10	4	問 20	1	問 30	5	問 40	4	問 50	2